

生まれる前と死んだ後－死生学の地平から

監査懇話会、2023 年 4 月 24 日

上智大学グリーフケア研究所 西平 直

1, 生まれる前と死んだ後

- 1) 生まれる前、私たちはいなかった。死んだ後、私たちはいなくなる
二つの「非在」に挟まれた短い時間
- 2) 子どもの頃の不思議 (1) 「死んだらどこにゆくのか」
人類は様々なことを考えてきた
- 3) 聖書は、死後について、明確に語らない (時代による違い、解釈による違い)

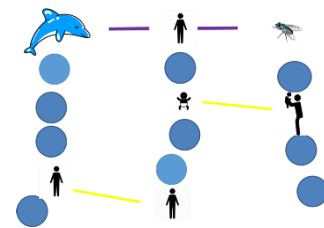
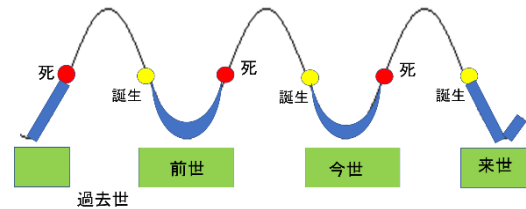
2, 転生 (生まれ変わり)

- 1) ブータン王国、転生が常識 (コモンセンス)
転生を信じているのではなく、
転生を生きている
- 2) エピソード (1) ある学生という言葉 「ブータンに生まれて幸せ」
エピソード (2) 親しい家族から 「友達の弟がトゥルク (化身) だよ」
エピソード (3) ヤンシィ (解脱した高僧の転生) とケワ (普通の人の輪廻)
- 3) 転生の世界観・人間観

時間軸：死んでも、また生まれ変わる

空間軸：生命はすべてつながっている

「このハエは、過去世では、あなたの親であったかもしれない」



4) 「私」の感覚 が違う

過去世においては、別の姿で生きていたと感じながら生きる私

魂が、ある時は象として現れ、ある時は私として現れ、いずれまた違った姿で現れてくる

補) ブータンには墓がない

中仕切り 誕生について ー子どもの頃の不思議

- 1) 妹の誕生を不思議に感じる ⇒赤ちゃんはどこから来たのか
自分の誕生を不思議に感じる ⇒僕はどこから来たのか
- 2) 自分が生れてこないこともありえた
- 3) 「私はある時期、自分には生れないことを選ぶ可能性があったのに、その道を選ばなかったということを、繰り返し考えていました」
- 4) 「私」が生まれることがない世界

3, 不生（盤珪禪師）

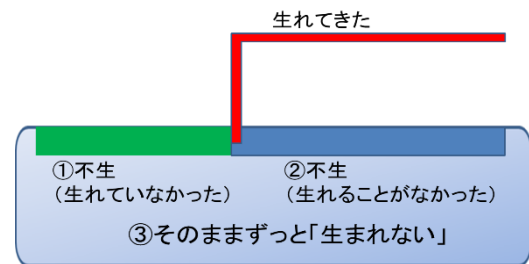
不生（生まれてこない「いのち」） ⇔ 生死（生まれて死ぬ「いのち」）

1) 「私」が生まれることがない地平

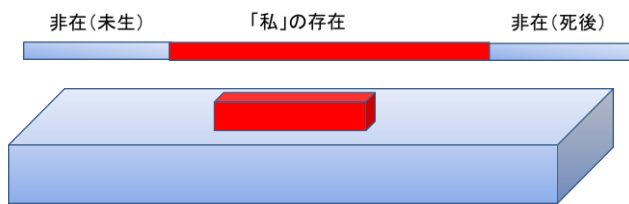
まだ生まれていないのではない

そのままずっと「生まれない」

「私」が生じない（「私」が存在することがない）



2) 不生は「私」によって分断されない



3) 「不生」が、今も、働いている

生きている者たちの基盤に流れている

「父母未生以前、本来面目」

「私」を生じさせることなく（生まれもった仏心のまま）

4) 〈これから来る者（将来世代）〉 〈生きている者（生者）〉 〈先に逝った者（死者）〉 不生から見ると等距離

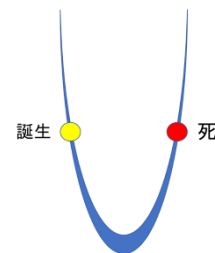


4, おわりに ー生まれてきた不思議と死んでゆく不思議

多様な話を聞いてみる 揺れてみる 正解を急がない

異なる多様な死生観、自らの内に矛盾を抱え込む

豊かさ・しなやかさ



補) たまたま生まれてきた

私たちはなぜか生まれてきた、そして生きている

「生まれてきてよかった（感謝）」と「生まれてこない方がよかった（未生怨）」

気がついた時には、いた。私たちは、どういうわけか、生まれてきた。

存在しないこともありえたはずなのに。

気がついた時には、既に、この自分として、生きていた。

参考文献（拙著）：『誕生のインファンティア』（みすず書房、2015年）、『ライフサイクルの哲学』（東京大学出版会、2019年）、『無心のダイナミズム』（岩波現代全書、2014年）